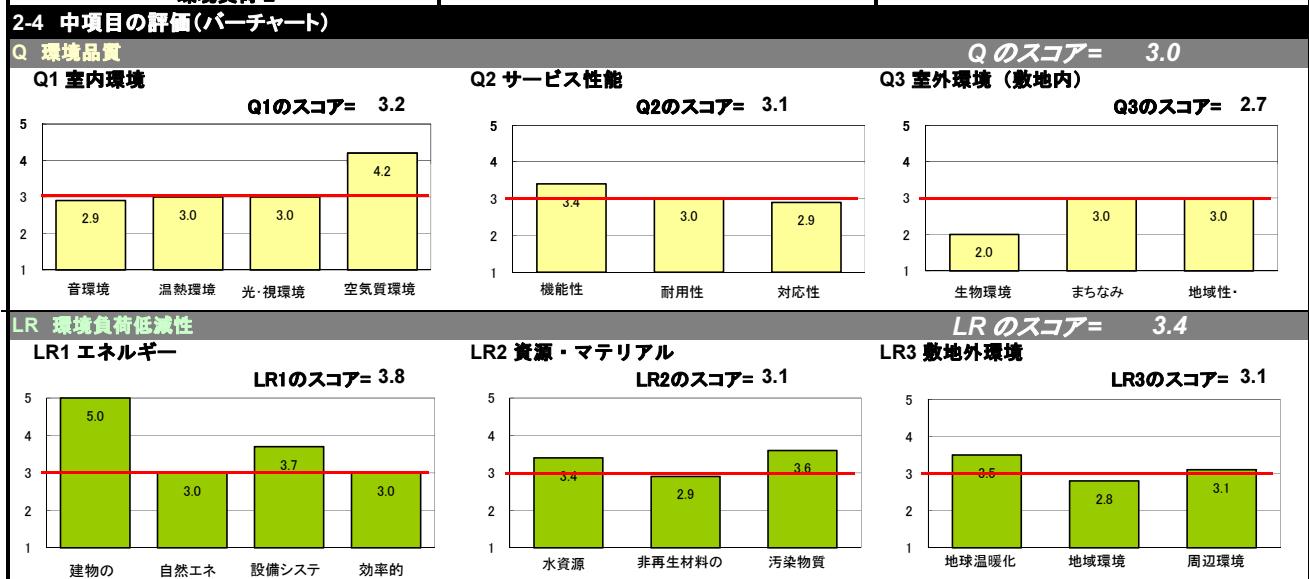
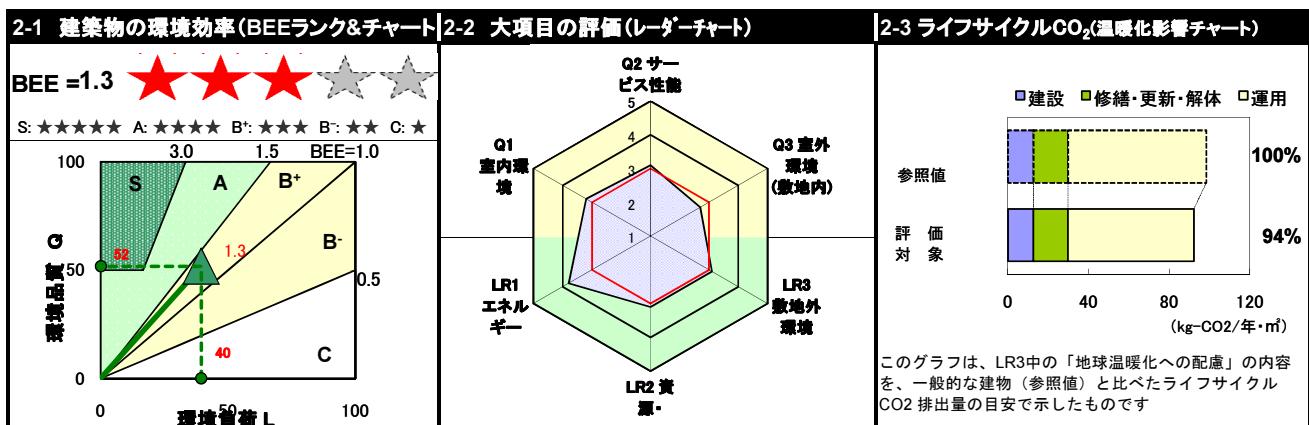


CASBEE® 新築[簡易版]

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 (使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京女大新学部棟校舎	階数	地上3F
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	200 人
気候区分		年間使用時間	1,200 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年3月 予定	評価の実施日	2010年7月9日
敷地面積	1,088 m ²	作成者	太刀川省治
建築面積	614 m ²	確認日	2010年7月10日
延床面積	2,113 m ²	確認者	石橋創



3 設計上の配慮事項			
総合 「京都女子大学組織改革グランドビジョン」の基礎となる施設整備事業。 女子大学初の法学部を設置と総合的なキャンパス整備を行う。 「心と知の全人教育」を実践する。		その他 0	
Q1 室内環境 音、光、温熱などを制御し、教育の場にふさわしい環境を実現する。 シックハウス対策として建築基準法対象外材料を全面的に使用する。		Q2 サービス性能 建物に求められる機能を明確化し、それに沿った内装計画とした。 例: 模擬法廷教室…静謐で緊張感があり、かつ落ち着いた雰囲気をかもし出す。	Q3 室外環境 (敷地内) 町並み、景観への配慮を最優先とする。 道路沿いの景観は周囲の建物に見られる石垣を敷地周囲にめぐらし、東山らしい景観を途切れさせないようにする。
LR1 エネルギー 建物の熱負荷を低減するため、屋根、壁で断熱を行い、同時にブラインドなどにより日射侵入を軽減する。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具の使用など資源の過剰消費を抑制する。 リサイクル素材の利用を図る。	LR3 敷地外環境 燃焼設備や広告物照明など、地球環境負荷となる施設を設置しない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される